



□ 10 □



茅野市玉川の標高1200m付近に広がる樹林帯。クマザサを原料とした医薬品などを製造、販売する「大和生物研究所」(本社・川崎市)の蓼科工場は、この森の中にひっそりと立っている。

1968(昭和43)年創業。扱うのは、クマザサを原料とした便祕薬や健康食品、のどあめ、せっけんなどだ。主力商品はクマザサの有効成分を抽出したドリンク型

医薬品製造・販売

大和生物研究所の蓼科工場 (茅野市玉川)

衛生管理徹底し成分抽出

の医薬品「ササヘルス」。疲労回復や食欲不振などに効果があるといい、全て蓼科工場で製造している。

工場見学で、まず案内されたのは原料のクマザサを保管する低温の部屋。水点下5度の室内には真内だけでなく新潟、岩手、青森県

で採った生のクマザサの葉を保管している。案内役の管理課長、佐々木慎さん(47)は「原料は全て国内産。大気汚染の心配がない標高千以上に自生するクマザサだけを使っていきます」と力を込めた。続いて向かった抽出室は工場の心臓部だ。クマザサの洗浄、あく

抜き、熱加水分解、抽出、ろ過を担う。直径約2mの大釜や遠心分離機が並ぶ。ここで抽出した原液が工場内のパイプを通じて、貯蔵室、中和室に送られる。貯蔵室には、大雪などでクマザサを収穫できなくても製品を安定供給できるように3カ月分の原液計約40tを保

管するタンクがある。建物内の衛生管理は徹底している。見学は、低温保管室を除き全てガラス越し。抽出液を瓶に詰めると充填室がある2階は、見学者も白衣と帽子を着用する。包装までの設備は2010年に一新した。1日約6千本詰められるという。127リットル入りの1瓶に手のひら大のクマザサ約2500枚が使われているという。



ササヘルスの充填室。茶色の瓶に抽出液を次々と注ぎ込む様子を、ガラス越しに見学できる



大和生物研究所蓼科工場で見学しているササヘルス

見学情報

20人以上で1カ月前までに申し込む。上限30人で繁忙期など

は断ることもある。植物園の見学は来年5月から一般の受け入れを期間限定で始め、案内役のボランティアも募る予定。問い合わせは879・6031。

園内には120種以上の竹笹類が植わる。竹を随所に使った数寄屋建築の茶室や待合もある。佐々木さんは「竹笹文化を茅野から全国に発信していきたい」と話した。

顧客に限ってきたが、来年5月からは一般の見学も受け付ける予定だ。

工場敷地内にある「蓼科笹類植物園」の見学はこれまで、こうした

薬店約1300店舗で販売している。1本入り1890円、3本入り5250円(ともに税込み)だ。

工場見学には、こうした店舗の関係者や愛用者が多く訪れている。